

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成21(2009)年

## 8月号

通巻468号

毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

発行日 平成21年8月23日  
発行所 大倭出版局  
〒631 0042 奈良市大倭町1の12  
電話(0742)44 0015  
印刷 大倭印刷  
定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
振替口座 01050 6 67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



新庄川の清流 岡山県真庭市 湯浅 芳郎さん撮影(文・8頁)

平成4(1992)年8月13日 東光大祭及び祖霊祭法話より(上)

## 宗教の根本——自分個人の心の修養

法主 矢追 日聖 (満80歳)

### 本当の宗教を区別する

お天気が良くないのに、ようこそお参りに来てくれましたね。昨日からの天気予報では、お祭りはもう全て屋根の下でしないといかんかと思っていたんです。

今日は、東の山から天の奇瑞が現れた記念日でございますので、雨になってもそれが神さんの心ということで、龍神さんに「天気にしてや」と頼まなかつたんです。まあ雨が降つたら来る人が少ないから気楽でええやないかと、それぐらいの気持ちであつたんです。けれどね、朝は降っていたのに段々と上がつてきて、神さんが機嫌良かったのかしれんけれども、お祭りの始まる午後二時の頃には、お日さんも一回だけ顔をささりましたわ。

秋になったとは言ってもまだ暑い時期ですけれど、ええ具合にさわさわと風が吹いて、全然扇も使わなかつたし汗も出なかつたし、天の恵みを非常に喜んでおりました。そんなんでは齋庭で、先祖さん等の名前を書いた塔婆を一つ一つ皆、入念にきちっと回向させてもらいました。

東光大祭の方は宗教的行事でありますけれど、祖霊祭は宗教的な行事と違いますね。これは我々肉体の持つて人間と、肉体の持たない人間とが交流する日で、本当は「霊界の人と現界の者が仲良く遊ぶ」というような行事なんです。日本の宗教は、死んだ人を拝んだりお経を上げたり、回向供養することを宗教らし

く言うてますけれどね。その辺を皆さん方には、はつきりと区別してほしいと思うんです。

## 東方の光によって示された教え

まず東光大祭の話を見せてもらうと、終戦は昭和二十年八月十五日ですから、その明くる年の昭和二十一年八月十二日だったと思うんです。私はまだ自分の実家に住んでおって、ここへ来て田とか畑とか作って百姓しておる時代でした。夕方、鏡池の堤防でうつむいて牛に食わす草を刈っていると、上から頭を何回か引つ張り上げられるんですね。何かおかしいなあと思って、ふっと力を抜いたら勝手に頭が上がる。今はこの辺の木が伸びて見えにくいですが、その時東の方を見たら、春日連峰の山際辺りから西の生駒山の方までね、虹色のサーチライトみたいな光が広がっているんです。濃い色のが八本、ちよつと薄い色の影が八本あるんです。

実に雄大な景色でしたが、これは一つの自然現象です。私だけじゃなしに、誰にでも見えたと思うんです。写真も撮れたかしらんけど、その時は貧乏生活しとってんから、カメラありませんしね。けれど未だにその姿がはつきりと目に映っています。絵でも描けるのやったら上手に描きたいんやけどね。

太陽が、ちよつと生駒の山に沈んでいる時なんです。太陽の方からそんな光が出ているのなら、虹と一緒にあとと思うけれどもね、逆に東の春日の山から出てくるというのが合点いかない。私は天文学が分からないし、何でこんな不思議なことがあるのかなと思って見ていたんです。またちよつとその時に、目で見て一間六尺位の南から満月の頭がちよつと出てくるしねえ。

果然とした気持ちで見えておった時にね、空から「黎明は訪れたり 東方の光 大法は立てり 大倭太加天腹」というような声が聞こえて来ました。その時、人格霊が出て来て、ある程度説明してくれるんです。人格霊は神さんとは違って、今から千年とか二千年とか前という場合もあるけれども、昔に死んだ人の霊魂です。結局、私の宗教的な一つの拠点というものを、この場所に作るということを示されたことになるんですね。

## 大倭の宗教的原理とは

「大倭太加天腹」ということは、大倭の宗教的原理だと言われるんです。原理と言ったって簡単なことです。

「大倭」は「オオヤマト（大親元）」ということだと言われるんです。ここが、我々の先祖さん、いわゆる霊界人全部の故郷である。そして「太加天腹」——日本の神道では、神主さんが祝詞をあげる時でも、よう「タカマノハラ」と言ってますわね。文字では「高天原」と書いて、何か神さんが沢山集まっておる高い所で、そこから天下って来てというような話が多いわけなんです。が、「太加天腹」というのはそんな高い所にあるのと違う。それは宇宙の一つの摂理・原理であって、ここの全てが太加天腹なんだと言われるんです。

太と加という言葉の、「タア」は陽性、プラスということ。「カア」は陰性、マイナスの方なんです。そのタアとカアの二つの物が一つになる所を「ハラ」と言ってますね。分かりやすく言えば、上が空で、下は土です。その空と土の接触している場所に種を蒔いたら芽が出てくる。そこが腹なんです。

けれどね、陽性と陰性が寄って全ての物を生み出してくるのが宇宙の根本的な摂理だということ。日本では昔から神道や仏教、哲学者とかも皆、説いておるんです。いわゆる相対性原理とかね、科学者でも言っているんですよ。私が今さらね、神ながらの原理やなんて言うのは恥ずかしいんです。

それを何で「大法は立てり」というようなことを言われたんかなあと思つたら、ものには時期があると私は解釈したんです。例えば種を蒔くのも、土があつて水があつてお日さんがあれば、何でも芽が出てくるかと言えばそうではなくて、春に蒔く種とか、秋に蒔く種とかやっぱ時期というのがあるんです。

だから過去の人達が既にもう説明しておるんやけれども、これからの時代、神ながらの宗教の必要な時が来ているんだというように私は受け取つたんです。何も私が新しく神ながらの原理を言うのと違うけれども、日本が戦争に負けたといううな今の時期が、本当に神ながらの教えを説くべき時であると私は思つたんです。

## 宗教と神社を分別する

そこでね、今日のこの日に私があなた達に言いたいことは、宗教ということと人格霊との関係ですね、ちよつと頭をひねって分別してほしいということなんです。

よく神社に祀られている人格霊は、いわゆる神さんです。そういう神さんを拝むことが宗教とは違いますね。宗教の根本というのは、個人個人の精神的な向上を図っていく、人間形成の問題なんです。

だから神さん仏さんに対し全く無信仰な人であ

つても、人間的・人格的によく出来ておればそれで良いわけなんです。日本人は、その辺を考え違っているんです。神社や寺にお参りするのや、神さん仏さんを祀って拜むのが宗教というように、皆、そんな考えをしていますけれども、人間形成の問題を宗教として考えてないんです。その世界は教育だと思っております。けれども人間が本当に向上して徳を積むには、霊の世界を知らなければいけないし、また霊界の人とお互いの交流がなければいけない。

宗教は何かご利益をもらうことのように考えるのが普通です。神さん仏さんに物を供えて、その代償として自分に何かの力をくれとか、病気を治してくれとか、交換条件で手を合わせている人が沢山いると思う。日本の宗教は、そういうように説明する場合があります。例を挙げたら、でんぼ(=できもの)の神さんやから、お参りしたらでんぼが治るといふようなことが世の中に通用している。祈祷してもらったら病気が治るとか、他にも色々なことが世の中にありますが、そんなものが宗教みたいに思っている。考えてみたらおかしい話でね、霊界にはそんなもの通用しませんよ。できものは、医者に行ったらいいんですよ。瑞光が現れた時に「大倭太加天腹」と言われるのは、その辺の区別を教えよということやと思うんですよ。

神さん仏さんを拜んでも悪くはないんです。けれども、それが何かの交換条件で拜むのであったら止めといたらい。病気を治してほしいとか、あるいは入学試験通るようとか、また何かを叶えてくれとか、まあ言うてみたら欲ばかりですわ。欲のないのが神さんやからね、そんなもの通用するはずないんですわ。(笑)

ほんまのところは宗教人の金儲けの手段になっ

ているんですよ。お葬式でも、この家の格やたらお布施なんぼ、戒名つけたらなんぼと、そういうふうにちゃんと出来ている。宗教人でも経済生活してるんやから無理もないと言えるけど、やっぱりその裏をしつかり考えなあかん。

### 加美さまに感謝を祈る

今話したように宗教の根本は、太加天腹の摂理をよくわきまえて、自分自身が人間的に向上していくことなんです。だから一番簡単なことを言えば、我々が皆、お互い同じ空気を吸って生かしてもらっていることに、日々感謝の祈りをしてほしい。感謝しなければいけないのは、万物一切を産み育てている宇宙の生命力、また万物を生かしている慈悲の心に対してです。それが加美さまなんです。

自分で生きている者は一人もいないんですよ。全部が生かされているんです。その生かしてくれている大きな心を忘れてしても皆、勝手に生きてるように錯覚しているんです。心臓が動いているのも神様の力であって、自分の力で動いているんじゃないんです。その一番大事な生命の根本である宇宙の大霊に対して、ほんまに敬い信仰している人はあまりいないと思うんです。それよりも、個人の利益のために神さん仏さん祀って一生懸命拜んでね、そういうのが信仰だと考えている。これは大間違いないんです。

この頃は、自然を擁護しないといかん、自然を守らなければいかんと言つ人は沢山います。けれども、自分自身の心臓を誰が動かしてくれるのか、誰が子供を産ませてくれるのか、そのような根本的な宇宙の生命力がもっと身近にあるんです。それに対して敬い、心から頭を下げるような

人間になってほしいと私は思います。

だから結局、感謝するということ。これからの宗教はそうでないとあかん。それがほんまの宗教やと思うんです。日々のその感謝の祈りが一番大事です。

### 加美さんの大慈悲の平等

宇宙の原理はプラス、マイナスによつて全てが仕組まれております。それが根本の力ですから、宇宙の大加美さんです。宇宙の大霊と言つてもいいんです。それを理解し、それに対して心から敬っているのなら、同じように肉体を持って生かされておる我々人間同士、日本人だけやなしに世界中の人間に対して、好きや嫌いやというような偏見を持つということとは、先ず加美さんの道に反する事は分かるはずなんです。

泥棒するような、人殺しするような人間は悪い奴だということになります。他にもいるんな人間が沢山おりますけれども、宇宙の生命力はどんな人間に対しても空気を吸わしてくれているんです。そういうような大慈悲の平等観をお互いに悟らないといけない。先ず自分の心から偏見を無くしていくようにする。それが先ず第一だと思うんです。

それから人間には皆、喜怒哀楽があります。腹の立つこともあれば欲もある。どんなこともあるけれども、お互いに許し合えるという人間になってほしいと思うんです。

私は未だに腹を立てた経験がないんです。人が腹を立てる心はよく分かっています。だから腹の立つものは持つておるんやけれども、今まで腹の立つようなことにぶつかったことがないということなんです。

それはものの考え方の問題やわね。利害関係を考えると、あるいは優越感とか劣等感とか、そんなものを持っていると、腹を立てたり喧嘩したりせんならん。お互いに皆、自然の力に抱かれてる同胞だと思つたらね、相手がどんなことをしたかて私は悪いと思わないんですよ。同じ人間同士やもの、お互いに許し合えるというような気持ちです。

皆、何故そういうことができないのか。今日でもニュース見てみると、西の方でまだ弾飛んで、同じ人間同士で殺し合いをやってるわな。何かの利害関係で喧嘩をしたら、命の取り合いまでする。そんな人間が今、世界中に充滿してあるわけです。血のつながつてる家族の中だけでさえ仲良くいかない場合が多い。そんな世の中やからね、本当の宗教として、神ながらの信仰が必要となつてきているんだと思います。

早く言えば、人間一人一人の精神的な修養とか精神的な向上が無いからやねん。宗教と言わずに大自然の力と言つてもいい。そういうものをよく知つて、その恩恵に対して感謝し、どんな人とも皆、お互い仲良くしていくという心になつてほしいと願うんです。

## 大倭の加美さんと人格霊

今日まで流行っているのは、何か自分が得をしようとするご利益主義の宗教です。伊勢神宮に行つても、靖国神社に行つても賽銭箱が置いてある。神社に祀っているのは、昔に亡くなった我々の大先輩ですよ。それに対してわずかな賽銭を放り込んでね、自分勝手な欲望を持って、何々して下さい」と頼むというんだから、もう冒険ですよ。こんなことをしているのは、おそらく日本だけでし

よう。

大倭の加美さんは、石(=磐座)を一つ、自然神のシンボルとして置いてあります。万物皆を生かしてある宇宙の生命力、生命体を石に例えてここ(拜殿正面)に置いてあるんです。これは太加天腹大神さんのご本体なんです。

隣り(向かつて右側)に祀つてるのは、奇稲田姫命さん。俗に言う出雲の神さんです。お産やとか結婚とかは出雲の神さんに拜んだらええと、そう言うて皆、山陰の出雲へ行くかしらんけど、うちのここにも居てはるんです。奇稲田姫命さんでも、生きてはつた時には小使もしはつたし、須佐緒命さんを腹の上に乗せて子供も産んではるんねん。(笑)

ただちよつと古かつたというだけの相違で、我々と同じ人間なんです。その当時の社会では良い位置におられた偉い人で、大倭神宮で亡くなつてはるから、ここで祀っております。

こつち(向かつて左側)にお祭りしているのは聖武天皇の皇后さん、安宿姫命なんです。藤原不比等の娘で光明皇后さんですね。ところが、そら言うてみたら私の嫁さんほど付いて来はるねん。だから私は聖武天皇にすまんと思つてます。(笑)

霊界でもやつぱり生きてる時と同じような心が皆あるんですよ。肉体がなくても人間だから、心は一緒なんです。女は男を好きになつて当たり前のことです。肉体がない霊やから、神さんになつてはるんじゃないんですよ。そんなわけで仲がええねんけれどね、相手は肉体のない人やから、うちの嫁さんでも、また世間にも焼きもちをやく人おらへんもの、気楽や。(笑)

その代わり、皇后さんの言われることをここで実現しています。

一一〇〇年ほど前、奈良朝の時代に、臣下から

皇后に上がるということは無かつてんな。けど藤原一門という権力者がバツクについていて、その力で初めて皇后になつてはるのが光明皇后やねん。いくら聖武天皇でも光明皇后がおらなかつたら、奈良の大仏さんを造ること出来へんかつたやろしね。そういうような大した勢いの光明皇后でも、自分の本当の心のままには出来なかつたことが、沢山あると言つんですよ。

大倭の宗教については、光明皇后さんにやつてほしいと言われたこともありすが、出て来て私に色んなことを言われるのは、大体聖徳太子なんです。

大倭には、どこを拜んでもらつても賽銭箱を置いてませんが、それも聖徳太子が、河原乞食みたいに投げ銭をしないでくれ。心があるのやつたら、きちんと供えたらいい」と言われるからです。

喜びの心をお賽銭という形で、神さんにお供えするような場合、その心は通じます。けれども霊界人には必要のないやから、使つのは私なんです。生きてる者は飯も食つんでね、ありがたいです。それで誰か知らんけどお賽銭を供えてくれたら感謝して、自分個人が使わしてもらつんです。神さん仏さんは関係ないんです。そこを分つてお賽銭を供えてくれるやつたら、私は喜んで色んな人のために使わしてもらいます。

けどねえ、初めは貰うの嫌やつてん。相談に来た人は大抵、持つて来てくれるやろ。一番最初の時、私は「いらん」言つて拒否したんです。終戦直後の時代やお互い皆、生活に困つてるのにお金なんか貰うのは気の毒で、冷汗出ます。が、けれども霊界人がね、これは人の好意やから、貰わなければ出してくれた人の徳が下がるって言われるから、私も気持ちよつ貰うようになりまして。まあこれは余談やけどね。(続く) 文責・編集部

# 特集 私と戦争 (上)

## 吹田・高槻、針の山

大阪府吹田市 今村 忠生

敗戦の年、昭和20年(1945年)、僕は数え歳15、旧制中学3年、国鉄(今のJR)の吹田工場(当時の名称は「大阪鉄道局吹田工機部」)に学徒勤労動員され、休日は月に2日という毎日を送っていました。

敗戦の日に近づくとつれ、大阪も東京に続いて(東京では3月に一夜にして確か10万人の死者が出るという大空襲があった)、組織的大規模の空襲が始まり(まず焼夷弾を落とし、灼熱地獄と化した街に破壊弾を落とす、できる限り多くの人命を奪うということを第一の目的としたものです。それに比べると、最近のイラク、アフガニスタンでの民間人犠牲者の数には、人道的配慮)があるとさえ感じてしまうのです。またたく間に大阪市内の中心部は焼け野原となっていました。

8月に入って、それも中旬になってからだと思憶するのですが、ある日の夕刻、僕の頭の上に米軍機がまいた宣伝ビラが舞い降りてきました。大日本帝国に対する曇りのない忠誠心の持ち主であった僕は、ただちに交番に宣伝ビラを届けに行きました。「鬼畜米英」の伝単(宣伝ビラ)は読んでもならぬと、かねがね言われていたのですが、勝手に目に入ってくるには仕方がない、そこには「このリーフレットは爆弾でもあり得たのだ」と、次は実物の爆弾でやるぞという脅しです。リーフレットという英語が1枚もののビラを意味する

ことを、その時初めて知りました。空襲下で得た新知識でした。

同じ頃、高槻でまかれたビラには、吹田・高槻、針の山、そしてそれが8月18日という予告つきであったとのこと。こういう噂は実に早いスピードで広がるものです。停戦は(国内では)8月15日、あと3日戦争が続けば、吹田も焼け野原になっていた可能性があったということ。住む場所によって、運・不運があることを覚えていいます。その点、戦後は拾った「余生」といえます。

(『吹田南3中校区9条の会ニューズ』2008年12月号より転載させて頂いたものです)

## 沖繩戦跡紀行

奈良県生駒市 仙波 誠二

私は、数年前から太平洋戦争前後の歴史、とりわけ沖繩戦について興味を持つて調べています。沖繩は、一九七二(昭和四十七年)、私が二十歳の時に日本に返還されました。私は、若い頃から沖繩の風土や人情、そしてアメリカナイズされたエキゾチックさが好きで、何度となく沖繩を訪れました。そこで沖繩の歴史や沖繩戦の悲惨さにつ



沖繩の屋敷山(おきなわ)に於て、多くの兵士が身を投げた摩文仁丘(まぶんじん)近きところ

いて知るにつれ、これを本土の人にも知ってほしいと思うようになりました。

私は、今年の四月初めに沖繩戦の資料集めと戦跡めぐりのため沖繩に行ってきました。そこでそのときの戦跡めぐりのご紹介をしたいと思います。

沖繩戦とは、一般に一九四五(昭和二十)年四月一日の米軍の沖繩上陸から摩文仁での司令官の自決による日本軍の組織的抵抗が終わった六月二十三日までをいいます。沖繩戦の特徴は、日本領土で初めて陸上戦闘が行われたということ、一般市民が戦闘に駆り出され、また巻き添えになって当時の県民の約三分の一の十五万人が犠牲になったということ。また、沖繩は明治になってから日本領土になったため、本土からは異文化や異人種として差別を受けていました。それを取り戻そうと本土との一体化が叫ばれ皇民化が推し進められました。その結果、本土の住民以上に天皇への忠誠心や、「生きて虜囚の辱めを受けず」という軍隊の戦陣訓を素朴に受け入れて、「集団自決」や日本軍によるスパイ容疑での住民虐殺が起りました。沖繩への蔑視と不信感、またそれを払拭しようと努力する住民の素朴さ。それらが戦闘に巻き込まれた以上に被害を増やした面がありました。米軍の撤いたビラを持っていたり、捕虜となって日本軍に伝令として来たというだけで、日本軍からスパイ容疑をかけられ殺されたそうです。

このような沖繩戦の戦跡を、米軍が上陸した四月一日に廻ってみようと思つたわけ。米軍は一九四五(昭和二十)年四月一日に読谷、嘉手納海岸に上陸しました。日本軍は、上陸時期を正確に予測していましたが、直前に最精鋭部隊を台湾に転出され、水際での撃退戦法から持久戦へと切り替えていたため、米軍は無抵抗のまま上陸することができました。当日はエイプリルフルだった

こともあり、無抵抗なまま上陸できたことに米軍兵士は狐につままれたような状態だったそうです。上陸の地碑がある泊城公園は平坦な砂浜が続いており、所々に沖縄特有の亀甲墓がありました。米軍の写真には、この亀甲墓で休憩をとる姿が写っています。

次に向かったのは泊城公園から少し東に行った所にある「道の駅かでな」です。この屋上からは米軍の嘉手納基地がよく見えます。広大な基地の中には、格納庫から住宅まであります。車で基地の周りを廻ってみると、あまりの広大さにこちら側が鉄条網に囲まれている錯覚さえ覚えます。

嘉手納基地から約十キロメートル南に激戦地の一つ嘉数高地(標高九十メートル)があります。日本軍は、首里城の地下に坑道を掘って司令部を置き、そこから同心円状に自然の高台を利用して幾重にも防衛線を築いていました。その第一の防衛線の中核が嘉数高地でした。ここにトーチカを築き、トーチカ間も坑道を掘って兵士や弾薬を自由に移動出来るようにしていました。米軍が砲撃をしても大砲を奥に隠し、近づいてくると攻撃を仕掛ける方法です。いぶん米軍を苦しめたそうです。現在はトーチカや陣地壕の入り口がわずかに残っているくらいで、激戦の名残りはもうありません。頂上には展望台があり、北側には移転計画がある普天間基地が広がっています。展望台から基地を見ていたとき、突然轟音と共に大型ヘリコプターが眼前に現れ基地に降りて行きました。二〇〇四年には墜落事故があったそうですが、基地の町を実感した一瞬でした。

嘉数高地のすぐ南には、首里城との間に前田高地(標高二二〇メートル)があります。ここは日本軍が嘉数高地撤退の後第二の防衛線としたところです。米軍に「ありったけの地獄を一つにまとめ

た戦場」と言われた戦いでした。ここには「浦添ようどれ」と呼ばれる英祖王統の墓陵もありましたが、砲撃で破壊されました。沖縄戦では、首里城を始め多くの文化財が失われました。もし私たちの奈良や京都の文化財が戦争で焼失していたとしたらどうでしょうか。首里城に司令部を置くなると当時の政府には沖縄の文化財をどう思っていたのでしょうか。

もう一つご紹介したい戦跡は、シュガーロフ(標高五十二メートル)です。首里の東に当たるこの丘もまれに見る激戦地で、頂上を奪うため至近距離からの手榴弾の投げあいなどで一日に何回も占領者が変わったそうです。米軍もあまりの死者の多さに、遺体を回収できないまま放置したり、ノイローゼで離脱する兵士が何千人もいたそうです。ここは現在新都心として免税店を始め新しい那覇の顔として発展しています。ここを訪れる観光客に、こんな近くで六十年前に死闘があったという何を何らかの形で残せないかと思えます。沖縄戦は、米軍の本土上陸を一日でも遅らせるための、当初から勝ち目のない捨て石としての戦いでした。その戦いの中で、沖縄の人々は傷つき、戦いの終わった後も米軍の基地を押し付けられ現在に至っています。それだからこそ、文部科学省が二〇〇七年の教科書検定で、沖縄戦の記述について「集団自決」が日本軍の強制であることを削除させたときの沖縄市民の怒りがどれほどだったのか分かるような気がします。元沖縄県知事で、学徒隊として沖縄戦を経験した大田氏はその著書のなかで「戦争とは何か、国を守るとは誰から誰を守るのか」と書かれています。私たちも今一度真剣に過去を見つめ直し、その見識をもとに現在を見、未来を見据えることの重要さを認識したいと思います。

## 東光大祭・祖霊祭

日時：平成21年9月3日(木曜日)

午後1時20分より

東方の碑 拝礼所にて

\*午後2時より

大倭大宮拝殿にて東光大祭

奥津斎庭にて祖霊祭

■東光大祭とは 昭和二十一年旧七月十五日夕刻、現大宮の東方の碑前あたりで法主様が農作業中、瑞光が天にあらわれて、天の声「黎明は訪れたり東方の光 大法は立てり大倭太加天腹」が聞こえ、宗教活動の本宮が現在の大倭紫陽花邑であることを示されたのを記念する大祭です。

■祖霊祭とは 大倭にご縁の皆さん方のご先祖諸霊を始め、それぞれにご縁のある諸霊を鎮魂慰霊するお祭りです。日頃霊界では互いに会えない霊人たちもこの日は会う事を許されるお祭りの日です。

当日夕方六時ごろに東方の碑あたりで満月の出を待ちながら東方瑞祥について考えてみませんか。直会も用意されます。どなた様もお気軽にご参加ください。

## こだまことだま

群馬県安中市・西川 弘二

## 第2信の

平成21(09)年4月6日

そんな頃、母が救急車を自ら何回も呼んで、様子が变だと兄から連絡がありました。一緒に実家に行ってみると、母は目がうつろで、かけるでもなくメールするでもなく、ひたすら携帯電話のボタンを押しています。僕を見ると、「お母さんがお父さんを殺したんか? そう言っただろ? お母さんが死ねばいいんか」と言つので、「気が狂ったか」。勝手に死にやがれ」と言つてしまいました。皆で相談した結果、父の入っていた精神病院で診てもらおうと、その日に入院させてくれました。

兄夫婦とこの頃からさらにギクシャクするようになりまして。着る物や手続きなどは僕がやりましたが、兄は「一緒にみよう」と言いながら、「仕事で行けない」とか「嫁の調子が悪いから行けない」とか、押し付けてくるような感じがしました。確かに兄嫁は膠原病を患いながら人工股関節にしている、薬の副作用が気落ちしたり体調不良もあるのでは仕方がないのは分かりますが、長男夫婦が「しつかりやれよ!」とつっぱね、兄夫婦とも連絡を取る事を止めました。(後で、母の借金を、母の親族から「子供がみなさい」と言われ、兄夫婦が処理してくれたことを知りました)

母の所にも行かず、兄夫婦とも連絡を取らず、「このままじゃ良くないけど、キツカケがないとなあ」と過ごしていました。「まっ、いいか」と投げやりでいました。体調も悪いし、仕事を何とかやっているという感じでした。

妻が、娘の高校を妻の実家の近くに行くように進めているので、「何で?」と聞くと、「私は子供

のために帰って来たただだから、どうしようとするの勝手です」と言います。「好きにしるや!。家でも車でも何でも持って行け!」とつっぱねたものの、体が言う事をきかない。

ふと思いついて漢方薬に頼ってみました。一時のぎには効きましたが高額です。「ずっと買うのは無理だろうけど、自殺だけはやめよう」「悪い事をやったのが今来ているのか。シンナーだろうか? タバコだろうか? 酒だろうか?」「死んだらどうなるんだろうか。娘は元気でやっていけるだろうか? 学費は?」……。

ひどくなったり和らいだりを繰り返す病気のせいで、いろいろな悪想念から犬にも「病気の身代りになつてくれないかなあ。気楽なもんだ」と心の声で八つ当たりもしました。

平成19年2月、犬の散歩中、中村さんと漢方の話から交流が深まり、新皇教宮(法主様によると、平将門の終焉の地であるという。その場所が屋敷内にあつたため中村家は長年苦しめられてきた。法主様が鎮魂され、将玄坊大善神と名付けられた将門霊をお祀りしている)の月次祭に参加をさせて頂き、大倭を知り、先祖供養(お給仕等)の大切さを教えて頂きました。

## 第3信の

平成21(09)年7月6日

「死後の世界で、現界での悩みや苦しみが残っている場合、血の縁や土地の縁のある現界人に頼らないといけない。言い換えると、我々が先祖供養や、また先に生きた先輩達への供養をしなければ、その悩みや苦しみが解消しないように仕組まれているのだ」という。「神さんは面倒な事を仕組んでくれたもんだ! でも本当に良くなるのなら、やってみるかな」という軽い気持ちでスタートしました。中村家の皆さんに「神様に人間欲のお願い事をしても、言つ事は聞いてくれませんよ。

求めなくてもすでに与えられているのに気付いていないだけ」と、今までの神様の対応とは全く逆の事を言われましたが……「利益を求めるクセがすぐには直りませんでした。

半年位して、妻が「起きてみると、ずーっと涙が出てくる。これじゃ仕事には行けないし車の運転も出来ない。困った、私はうつ病だ」と言うので、精神科へ連れて行きました。そういう妻の状態を、新皇教宮の月次祭でポロッと話してしまいました。桜井節子さんが「ついであるので大倭に聞いてみますよ」と言うのでお願いをしたものの、僕は医者頼りで心配をされていて、霊的な事など思ってもみませんでした。

すると……「奥さんの先祖さんに、将玄坊さんと心を共にされた方がいます。奥さんの肉体を通じて、うれい」という気持ちが出来ているものなので、しばらくしたら落ち着くはずですから心配はいりませんよ。奥さんに話してもすぐには理解されないかもしれませんが、仲間として迎え入れて仲良く一緒に暮らす心でお給仕を続けて下さい。そして大倭の光につなげていきましょう。千年も前の人の心ですが、立派に生きたとしても、本心との少しのズレで霊界で悩み苦しんでおられるのです」と聞かれました。

「立派に生きても霊界では悩み・苦しみを味わってしまうのか? それなら俺はどんだけ悩み苦しむのだろう。やばい! やばいぞ! 今世の悪想念だけでもやばい! あれっ! 今苦しんでいるのは何でだろう? これって本心と今の心のズレの反省かな? と、お給仕の大切さもズッシリと感じながら、自分自身の本心との対話が、今までの反省とはちがう、正しく生きるための反省心がわき出てきたように思い、成長するという意味が分かり始めました。(続く)

# あじさい日誌

7月11日 午前10時半から奈良パークホテルで邑交會。矢追家麻呂教長さんから紫陽花邑の原点を忘れないようにという挨拶があり、また「エステイムライフ学園前」館長の渡部徳博さんと後任の末澤靖教さんの歡送迎會もありました。

7月12日 禊會。

7月15日 大倭神宮月次祭。

7月18日 夜、大倭會館で「弥栄おどり」の準備會。

7月19日 夜、交流の家でF.I.W.C定例委員會。今夏も、韓国や中国のハンセン病回復者の村でのワークキャンプが行われる他、新たにインドネシアでという動きもあるとのこと。

7月22日 大倭印刷(株)では曇り空の切れ間、部分日食をワイ

ワイと見上げました。(但し、写真は知り合いからの借り物)



7月23日 大倭大本宮月次祭。大阪市の安田弘子・喜多多恵子、堺市の藤井美保、吹田市の大島良介の4人の方が初参加。8月1・3日 宮崎の菊地洋一・相馬敬子さんは約2ヵ月間、青森までの各地を回り8月6日広島への途次、来邑。現在、瀬戸内海の景勝地に原発建設の動きがあるとのこと。8月6日 大倭神宮月次祭。

## 第304回 大倭會文化行事 秋の一泊旅行のご案内

—源氏物語の世界と遊覧船による  
明石大橋回遊—

皆さん、山と海に出かけます。  
お問い合わせでご参加ください。

日 時：平成21年10月25日(日)  
～26日(月)  
行き先：姫路・明石・須磨方面の寺社を回り、神戸から遊覧船で明石大橋まで洋上散歩(全行程バスで) ことぶきろう  
お泊り：須磨の静かなお宿 寿楼 電話 078-731-4351  
費用等：詳しくは次号にて。  
問合せ：湯浅芳郎 090-6987-5847

日本を旅立つ日も近いのでしようか、神宮の杉の木にアオバズク一家が見えました。



夜、大倭會館で邑倭の會。  
8月8日 夏も元氣一杯の昇ちやんは、青山法義さんと映画「G.E.ジョー」鑑賞。  
大倭神宮社務所での珍しい写真です。(高橋良美さん写、右も)



8月9日 あいにくの雨天の中、午前8時から大倭墓地の掃除。9時からは建物内を中心にその後雨の止み間を見て外回り

もと、紫陽花邑の大掃除が行われました。お疲れさま！  
8月6・9日 広島・長崎の原爆投下時刻に拝殿の太鼓が打ち鳴らされました。  
大倭安宿苑では

7月25日 断続的にずっと雨という天候……野外アトラクションは中止して、屋台のみの夏祭りとなりました。

(菅原園)

7月25日 中止になった夏祭りアトラクションを園内で開催、家族と共に過ごしました。

(須加宮寮)

8月2日 今月から、買い物会」を始め、5名の住苑者がイズミヤへ行きました。

(長曾根寮)

7月10日 音楽クラブ/7月16日 誕生會/7月23日 美容教室/8月3日 書道クラブ/ (デイサービス) 7月27日 おやつ作り・7月29日 紙芝居等、どうぞ少しでも楽しく！  
(八重垣園)

投句箱より「梅雨晴れや快拳の宇宙飛行士。」

(俳句の風物)

上田森彦(99歳) 端居して旅に誘はれりたりけり 団扇を手にのんびりと涼んで

いと訪れた知人が避暑の旅にと誘う。一寸心は動くが、行き

来の乗物を思うとつい億劫で。むかしは良かった話しの小陰

が涼しい(自由律) 森彦

(茂毛園) 8月6日 「ピアノで歌おう」で「長崎の鐘」を歌いました。

# あんない

\* 東光大祭及び祖靈祭

9月3日(木) (旧暦7月15日) 午後1時20分より東方の碑前で拝礼。2時より大本宮拝殿で東光大祭、及び奥津齋庭で祖靈祭を行います。6頁参照。

\* 月次祭(大倭神宮)

9月6日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

\* 大倭會主催第四八八回禊會 9月13日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

\* 月次祭(大倭神宮)

9月15日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

\* 月次祭(大倭大本宮)

9月23日(祝) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

## 表紙写真について

岡山県真庭市美甘にて 湯浅 芳郎  
新庄川は岡山を流れる三大河川の一つ、旭川の支流である。毛無山(1218メートル)の源流からすぐに美甘地区を流れ、渓谷や緩やかな淵をつくる。美甘は過疎ながら風景美しく、水が甘い。今、夏の盛りは鮎釣りのシーズンである。  
四五匹の鮎届きたる解禁日